

# (敦島小) 学校 学校関係者評価書 (前期)

平成26年7月30日 (水)

(敦島小学校) 学校関係者評価委員会作成

## 第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成26年7月17日(木) 午後3時30分～4時40分

会場：敦島小学校図書室

参加者：(学校関係者評価委員)

学校評議員：小田切 道之、松土 仁郎

辻 英夫、三井 和彦

P T A代表：小林 淳 (P T A会長)

### (学校側)

校長 保坂 秀人

教頭 坂本 祐二

教務主任 飯塚 正規

## I 学校側から提案された内容

学校側から、6月に学校において実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」を基礎資料として分析し、まとめた「自己評価書」に基づき、次の内容について提案があった。

(1) 学校教育目標及び学校経営方針について

(2) 自己評価について

① 全体評価

② 項目ごとの評価結果について (達成状況・改善策)

(ア) 学校教育目標に関して・学校経営について

(イ) 学校運営について

(ウ) 学習指導について

(エ) 生徒指導について

(オ) 地域との連携について

(カ) 学校の特色に関して

(3) まとめ

## II 協議された主な内容

### 1 教職員自己評価及び児童アンケートの結果について

- ・児童へのアンケート、全質問26項目中(内2問は具体的な数字で答えるもの)、肯定的な回答が80%を超える項目が19個(昨年同期は17個)であり、全般的には良好な様子が伺える。ただし、項目によっては、数は少なくとも、否定的な回答をした児童がいることはしっかり押さえておく必要がある。「学校が楽しくない」と答えている児童が1人、「朝ご飯を食べていない児童が3人いる」などの項目である。個々の児童について可能な範囲でその児童全体の分析もしておくことも必要である。「相談できる友だち、教師がいない」児童が34人いる点も、いじめ問題に関わり、児童理解に様々な角度から取り組み、その数を減らして欲しい。ここ数年継続的にQ-Uテストを行っているので、効果的に活用していきたい。

- ・児童アンケートによれば、全校児童の94.7%が、学校が「とても楽しい」「楽しい」と回答しており、学校生活を肯定的に捉えている様子がうかがえる。
- ・教職員自己評価で、「学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている」という設問に対し、100%の職員が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。教職員が学校経営方針を理解するとともに、日頃の教育実践や校務分掌を遂行する中で、学校教育目標の具現化に努めているからであると考えられる。
- ・校内研究については、今後更に、ブロック（学年）ごとに具体的な研究が進む予定である。本年度集中的に取り組んでいる算数科の実践（朝学習のパワーアップタイム：算数科の継続的な基礎学習等も含む）を積極的に行うとともに、その成果を検証していく。
- ・防犯については、マニュアルの確認の機会を一層もつとともに、「声かけ事案」「学校への不審者侵入」「通報訓練」等、想定を変えた防犯教室を関係機関（警察署）と連携する中で実施し、児童や職員の意識と技能の向上を図る。本年度は昨年度に引き続き2年生においても防犯教室を実施した。また、昨年6月に首都圏の小中学校で起きた、正門付近での集団下校児童への傷害事件を受け、「学校への不審者侵入」に対する取組を積極的に行っていきたい。
- ・通学路の安全確保については、継続的に点検を行っていき、地域との連携も図りながら児童の安全確保に努力していく必要がある。課題であった場所が改善されつつある。引き続き見直しを行っていく。老人クラブの方々には、「高齢者と子どもの帰り道ふれあい事業」で日頃よりお世話になっており、感謝したい。

## 2 学習指導について

- ・児童アンケートで、「授業中に質問や意見を言っていますか」に対し、27.7%の児童が「あまり言っていない」「言っていない」と回答し、「わからないことがあったら先生に聞いていますか」という設問に対しては、23.9%の児童が「あまり聞いていない」「聞いていない」と回答した。より主体的な授業への参加を目指していくため、低、中、高学年を問わず、疑問点はそのままだとしないで、質問できる、する教室環境を作っていくことにも一層心がけていって欲しい。
- ・評価規準と評価方法を明確にした授業や教材・教具や備品の活用については、指導と評価の一体化という観点から、つまずきの発見や学力の定着のためにも、自己評価書の改善策にあるように職員同士での実践紹介や効果についての研究を引き続き実施していく必要がある。
- ・家庭学習については、宿題を忘れずに行うための継続的な指導を行うとともに家庭の協力を得ていくことが必要である。
- ・楽しい授業、わかる授業を目指し、今後とも個に応じた指導（繰り返し指導、グループ別指導、補充的な学習等）や体験的な学習（作業、実習、創作、実験）の充実を図っていくことが求められる。

## 3 生徒指導について

- ・学校を休みがちな児童への対応として、学校としては職員間の共通理解の徹底、保健室の活用、担任による学習支援や相談活動を行っている。引き続き関係機関（教育機関、医療機関等）や家庭との連携を密にし、保護者が一人悩むといったことがないように、また、保護者に協力してもらいたいことは伝え、いつでも学

級で迎えることができる居場所をつくって欲しい。

- ・「困ったことがあったら、相談できる先生がいますか」の設問に対して74.3%の児童が「いる」と回答しており、昨年同期より0.5ポイント上昇している。この割合を更に高める工夫を行っていききたい。日常の地道な活動を継続して行く必要がある。
- ・ファミリーグループによる「ちびっ子祭」「ファミリータイム」は効果的な活動である。少子化による遊びの変化、仲間の減少を考えると、異年齢による集団活動は仲間づくりや思いやりの心、リーダーの育成に効果があると思える。今後も継続して欲しい。
- ・「もしいじめをしている人がいたら、とめることができますか」の設問に対して78.1%の児童が「しっかりできる」「できる」と回答している。こういった行動ができることはとても大切なことである。時によれば大人でもなかなか対応が難しいこともある。この数の拡大を目指し、今後、学級・学年作りを核とした学校づくり、児童が安心して学校生活を送ることができる環境作りに一層取り組んで欲しい。
- ・あいさつ運動については、本校の大きな課題として職員間でも取り扱うようにしている。あいさつがしっかりできることの良さを日常的に機会を捉えて紹介していったり、児童会の取組も継続的に行って行って欲しい。

#### 4 家庭、地域との連携について

- ・学校では、学校・学年・学級便り、ホームページ等を利用して、情報を発信しているが、学校が抱える課題、例えば学習指導上や生徒指導上の課題など、学校だけで抱え込まず、積極的に情報提供し、学校、家庭、地域が連携し解決していくことが大切である。
- ・「地域、保護者は、児童生徒の安全確保に努めている」については、ほぼ全員の職員が協力的だと感じている。保護者による「登校時の旗振り」、高齢者による「子どもの帰り道ふれあい事業」など、児童の安全確保に有効に機能していると思われる。地域の方々を講師として招聘し、授業などに協力をしていただくことなど、積極的に行っていききたい。本校なりの人材バンクリスト的を作成していく必要がある。

## <学校関係者評価書>

### I 全体評価

- ・教職員の自己評価や児童アンケートの回答から見ると、本校の前期の教育活動及び学校運営（学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等）については、「そう思う」「ややそう思う」と回答している割合がほとんどである。これは、教職員が学校経営方針を理解し、日常の教育実践や校務分掌を分担遂行する中で学校教育目標の具現化に努めていると言える。
- ・全校児童の多くが、学校が「とても楽しい」、「楽しい」と回答し、昨年と同様に学校生活を肯定的にとらえている。
- ・授業については、多くの児童が「とても楽しい」「楽しい」と回答している。また、教師も基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着のために、個に応じた指導を行っている。

## Ⅱ 特 徴

- ・本校の特色である「ファミリーグループによる活動（縦割り班活動）」の内容の工夫と計画的な取り組みは、全校集団づくりや学級集団づくりなど、教師と児童の信頼関係や児童相互の好ましい人間関係づくりといった面で大きな効果を発揮している。
- ・合唱活動に積極的に取り組んでいる。ドレミファ集会を実施し、音楽の学習や学年の合唱活動の成果を発表するよい機会となっている。

## Ⅲ 今後の課題として意識して欲しいこと

- ・教職員の自己評価と児童のアンケート結果から、教育活動に取り組む教職員の意識と児童の学校生活における感じ方にさほど差がないことがわかった。今後はこの結果を教育活動のさらなる充実につなげていくために、実践を工夫して行って欲しい。特に、P→D→C→Aサイクルを生かした学校評価、改善を繰り返しながら、より高次の教育を追求していただきたい。現在行っている、行事などの反省は、引き続いて、実施直後に反省をしていくとよい。
- ・生徒指導における教職員間での課題の共有を更に推し進め、児童個々にあったきめ細かな指導を引き続いて行って欲しい。
- ・確かな学力の定着のために、先生方も大変頑張っているところだが、今後も指導方法の工夫改善を行う中で、個に応じた指導を充実していただきたい。
- ・児童や学校が抱える諸課題の解決に向け、今後も家庭や地域の人々との情報共有や教育活動への参画を求めていく必要がある。
- ・引き続き、危機管理、学校安全に積極的に努めて行って欲しい。
- ・学習のための学校全体の環境、教室環境づくりに継続的に努力して行って欲しい。

※特記事項      なし

記載責任者（敷島小学校 学校関係者評価委員）      氏名：小田切 道之      印